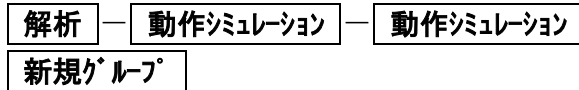


(1) 練習1 (Simple1)

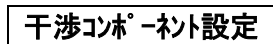
1. グループの割付け

動作シミュレーションの設定画面を開き、動作シミュレーションのためのグループを設定します。



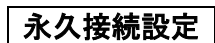
2. 干渉コンポーネント設定

干渉解析を行うコンポーネントを設定します。



3. 接続設定

グループに接続条件を設定します。



4. 動作設定

動作シミュレーションの設定ダイアログにてグループの動作のタイプ、方向、時間、大きさなど設定します。

5. 動作計算

動作計算を行います。



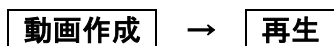
6. シミュレーション

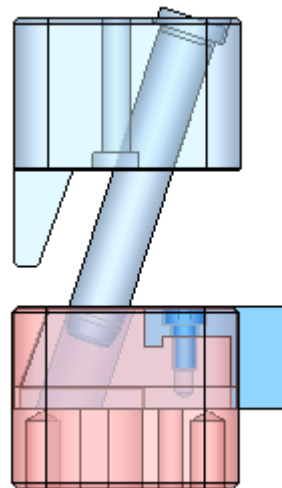
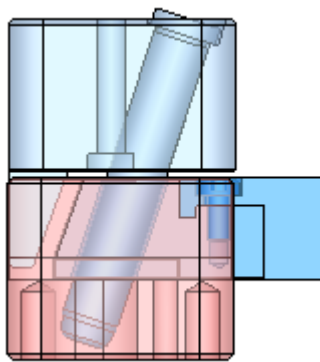
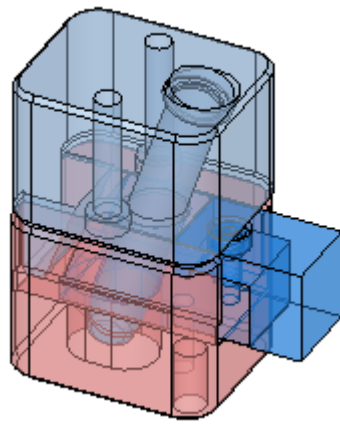
計算結果を再生します。



7. 動画作成

シミュレーションの動画を作成します。



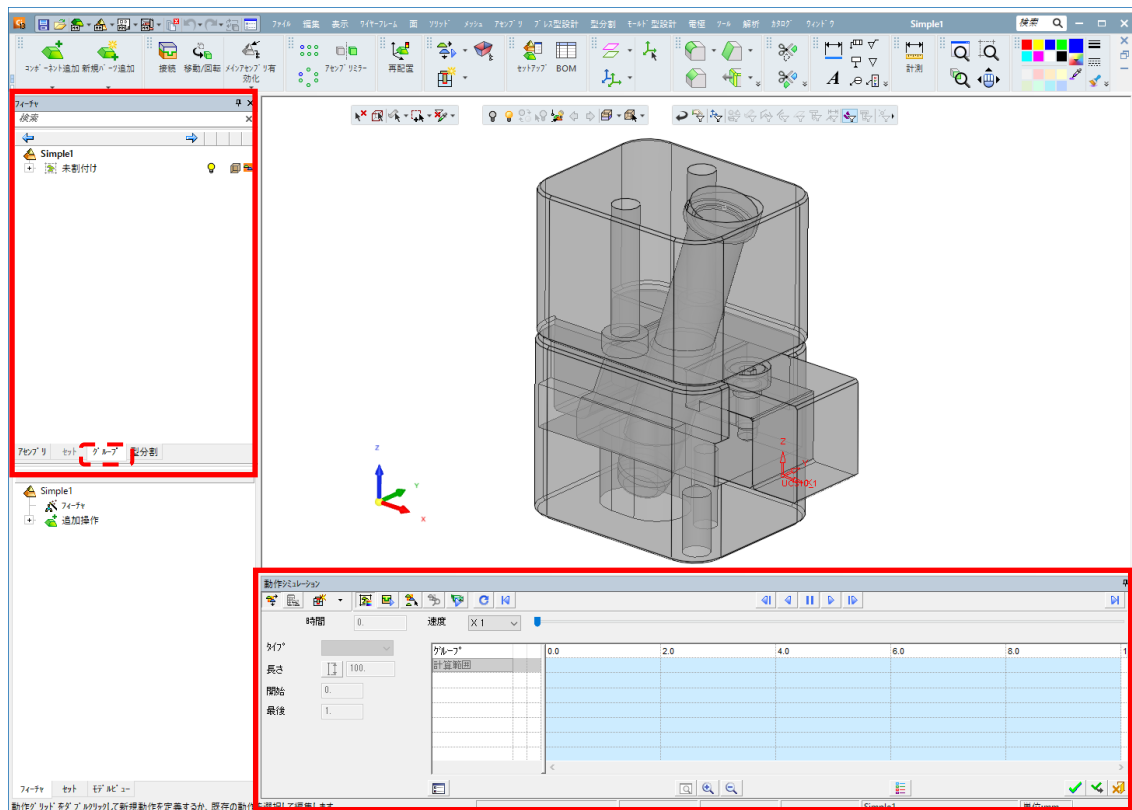
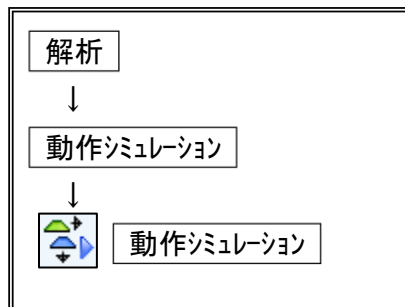


1. グループの割付け

アセンブリで作られたスライド形状を読み込み動作シミュレーションを行います。

Simple1を開きます。

動作シミュレーションを実行します。



フィチャツリ枠にはグループタブの表示に切り替わり、画面の下の方に新規動作シミュレーションの枠が表示されます。

動作シミュレーションを行うコンポーネントをグループに割付けていきます。

＜グラフィック領域＞

Guide Z181 を選択し

＜グループ 枠内＞

③＜ホップアップ＞

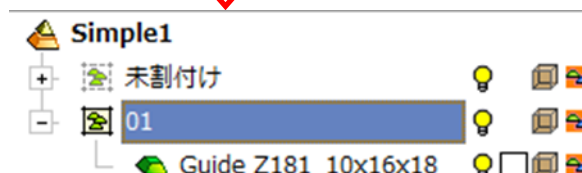
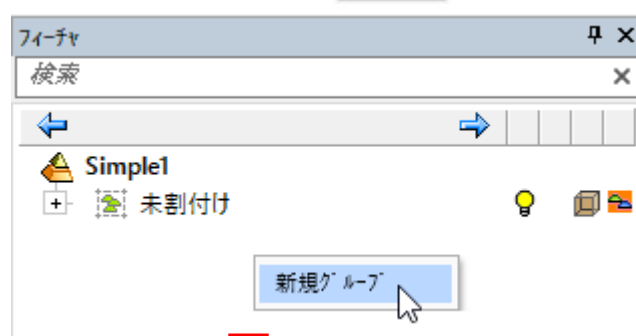
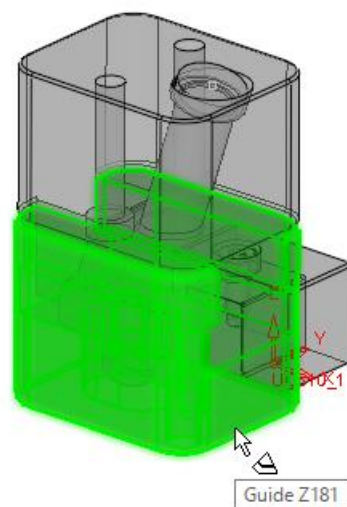
新規グループ

を選びます。

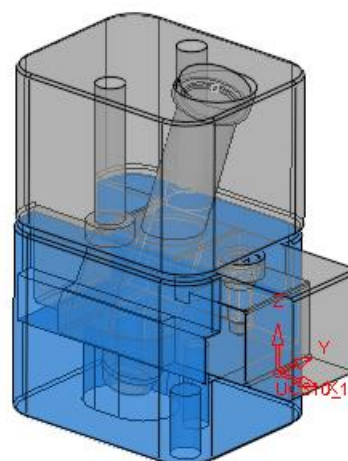
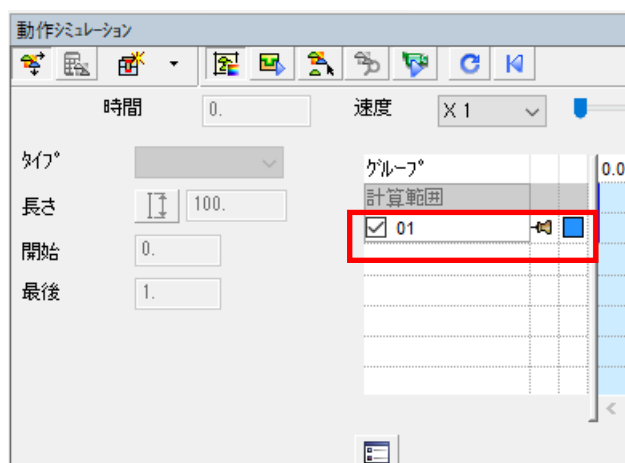
グループ名を

“01”

とします。



選択された GuideZ181 は 動作シミュレーション枠のグループ 01 の色に変わり、割付けが完了したことがわかります。



同様に他のコンポーネントを別グループに割付けていきます。

<グラフィック領域>

Locking heel Z1810

を選択

<グループ 枠内>

③<ホップアップ>

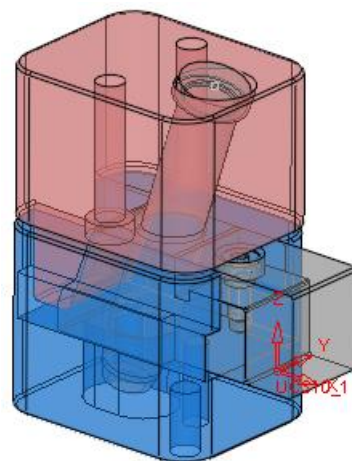
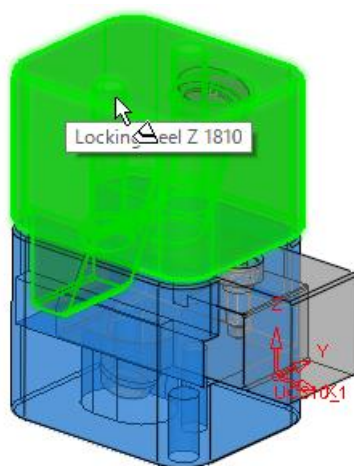
新規グループ

を選びます。

グループ名を

“02”

とします。



グループ		
計算範囲		
<input checked="" type="checkbox"/>	01	
<input checked="" type="checkbox"/>	02	

<グラフィック領域>

Slide core Z181 を選択

<グループ 枠内>

③<ホップアップ>

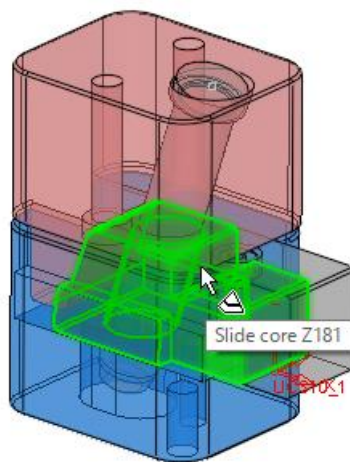
新規グループ

を選びます。

グループ名を

“03”

とします。



グループ		
計算範囲		
<input checked="" type="checkbox"/>	01	
<input checked="" type="checkbox"/>	02	
<input checked="" type="checkbox"/>	03	

Simple1			
+	未割付け		
-	01		
-	02		
-	03		
-	Slide core Z181_10x16x18		
-	Locking heel Z 1810_ ...		
-	Slide core Z181_10x16...		

残りのコンポーネントは手動で割付けます。

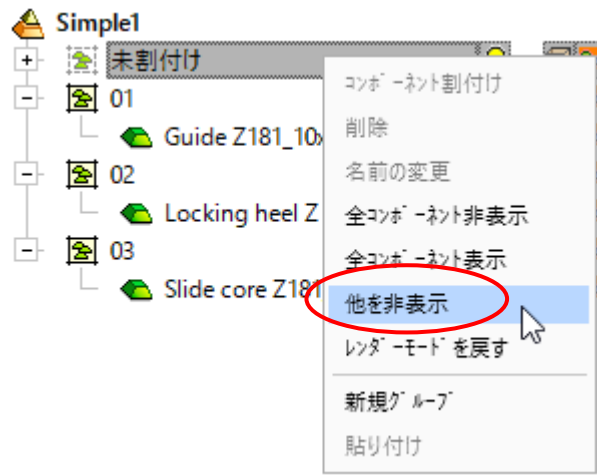
分かりやすいように、未割付け以外を非表示し作業をします。

<グループ ツリー>

未割付けコンポーネント上

③<ポップアップ>

他を非表示



<グラフィック領域>

Guide pillar Z01

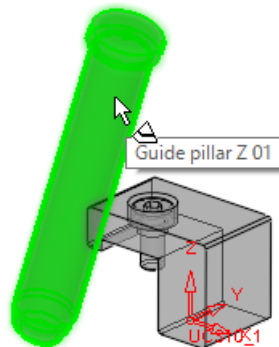
を選択

<グループ ツリー>

02 上で

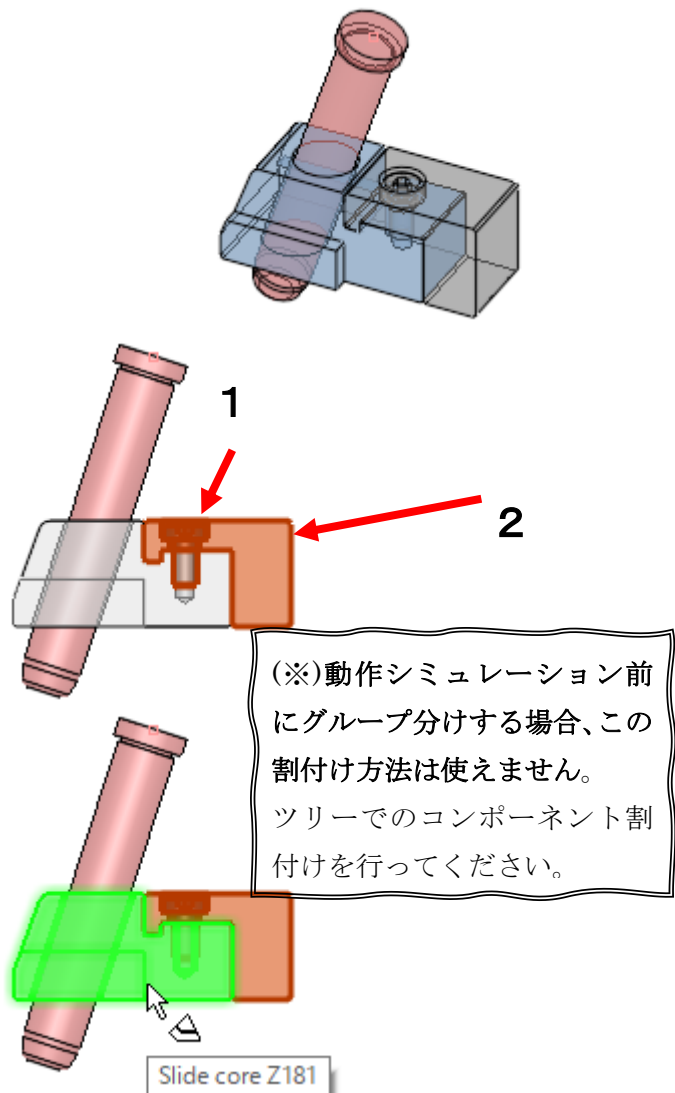
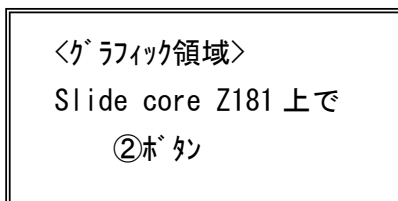
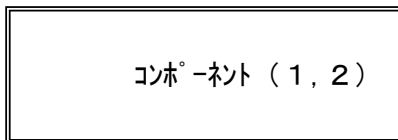
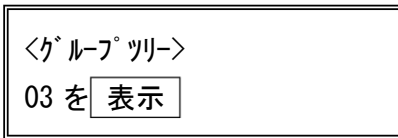
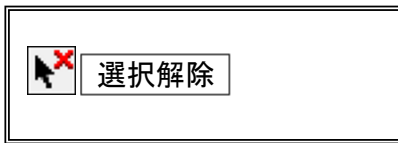
③<ポップアップ>

コンポーネント割付け

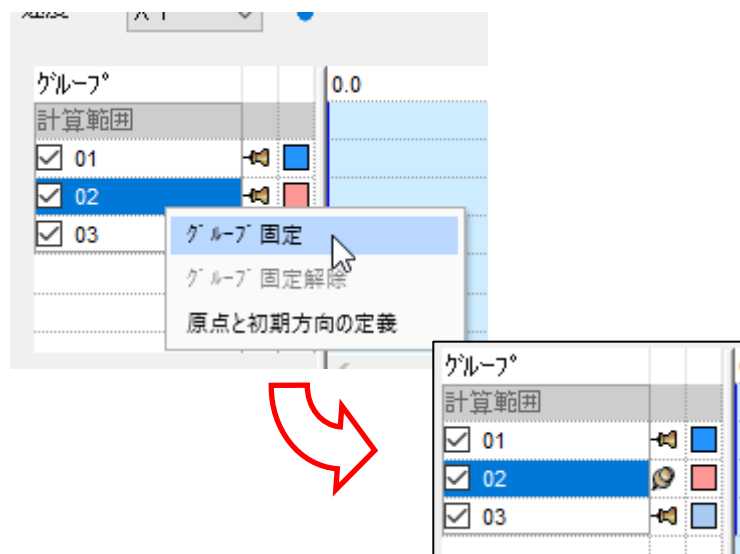
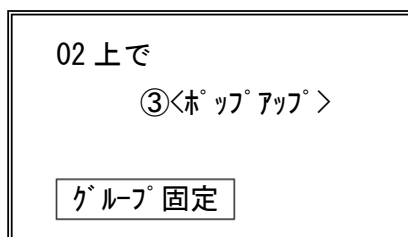


(※)表示を切り替えながら設定する場合はコンポーネント割付けすると、非表示にした要素が表示されてしまいます。不具合と認識していますが、動作シミュレーション前にグループ分けすることで回避が可能です。動作シミュレーション前のグループ分けをお勧めします。

要素が選択されていれば、選択を解除しグループ 03 を表示させ進めます。



すべてのコンポーネントが割付けられ、未割付けのコンポーネントがなくなります。
次に、グループ 02 だけを動作しないように固定しておきます。



2. 干渉コンポーネント設定

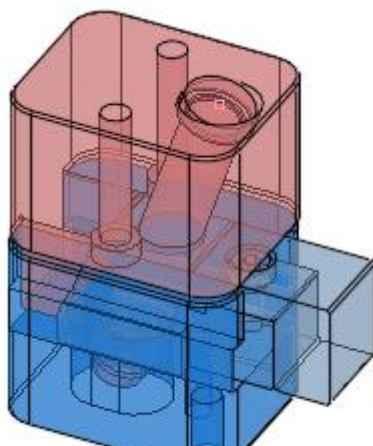
次に、動作シミュレーションを行うにあたって干渉解析を行うコンポーネントを設定します。

ここで設定されないコンポーネントは、シミュレーション時に干渉してしまう場合があります。

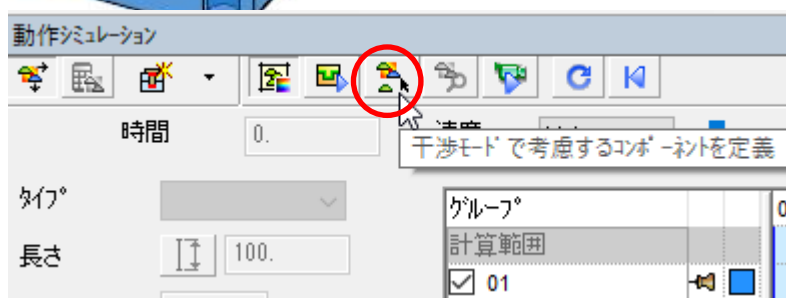
いくつかのコンポーネントだけを解析すれば良い場合や、シミュレーション計算の複雑さを軽減したい場合には、この設定から外します。

またこの設定を行わない場合は、全てのコンポーネントが干渉解析の対象となります。

全コンポーネント表示



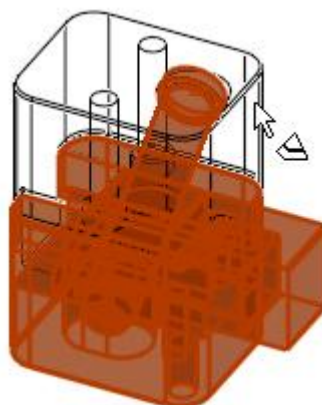
干渉モードで考慮する
コンポーネントを定義



初期状態ではすべてのコンポーネントが選択されていますので、

Cap Screw Z 32 および Locking heel Z1810 を選択解除します。

Locking heel Z1810
Cap Screw Z 32 を
クリックし選択解除

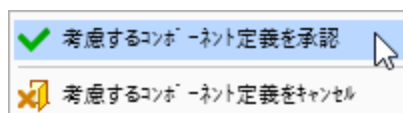


<グラフィック領域上>

③<ポップアップ>

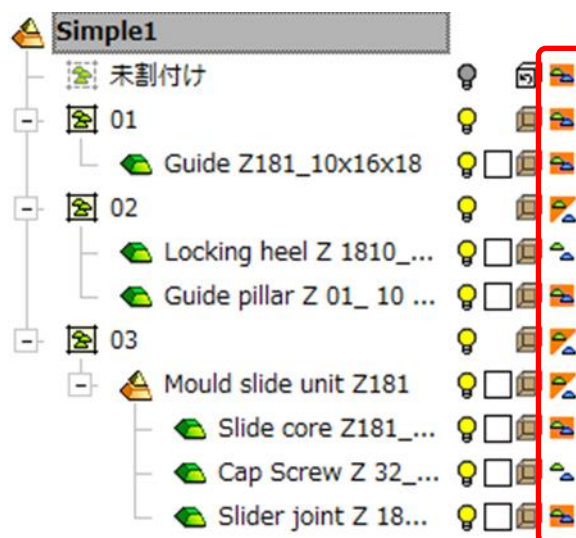


考慮するコンポーネント
定義を承認






グループツリーのアイコンを確認してください。

アイコンは、干渉コンポーネントの設定状態を示します。



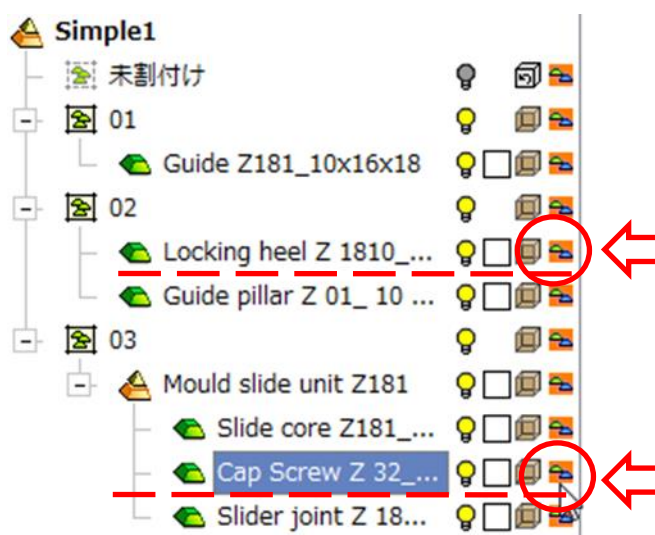
＜干渉考慮の設定状態のアイコン＞

-  全てのコンポーネントは干渉のため解析されます。(干渉考慮モード)
-  いくつかのコンポーネントは干渉のために解析されます。
-  干渉のために解析されるコンポーネントはありません。(干渉無視モード)

＜グループツリー＞

Locking heel Z1810
Cap Screw Z32
のアイコンをクリックし

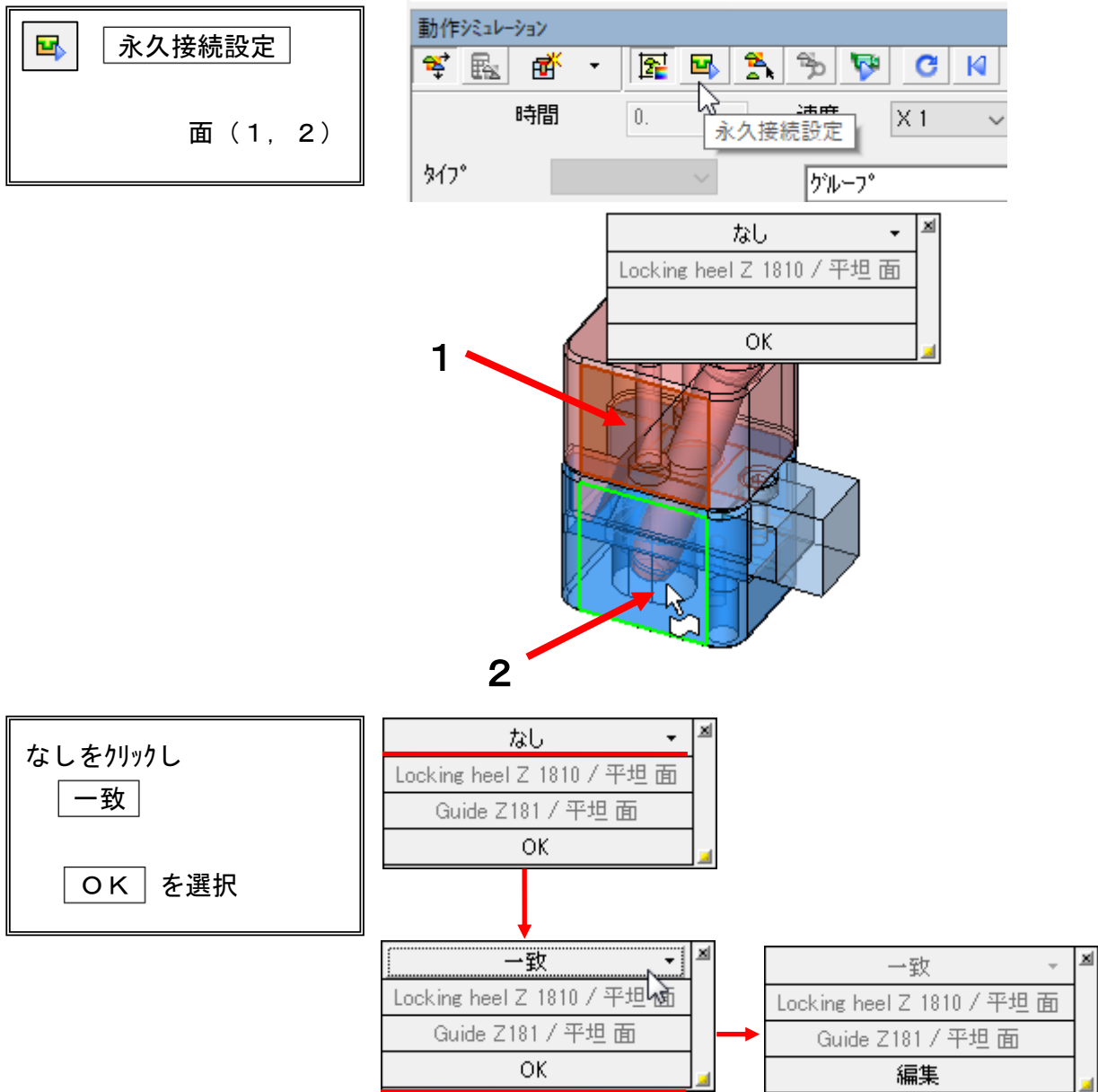
干渉考慮モードに変更してく
ださい。



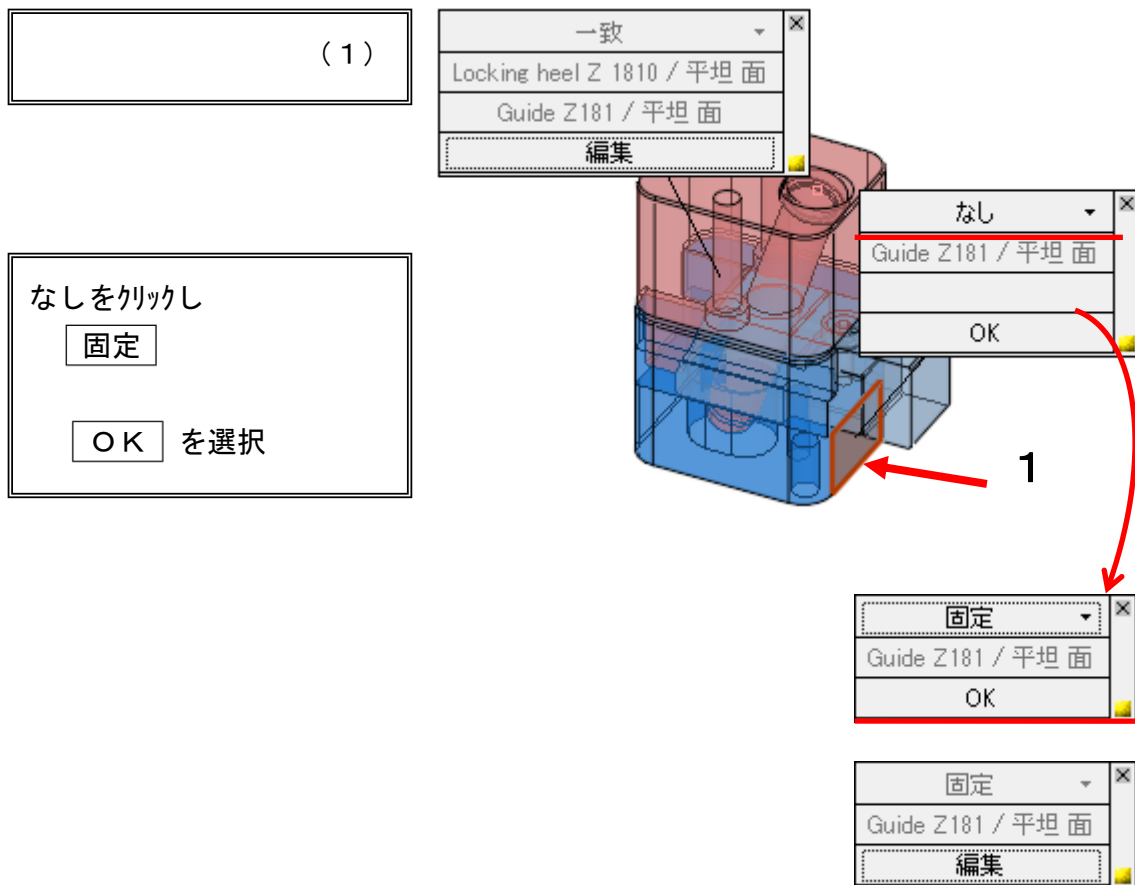
3. 接続設定

グループに接続の条件を設定します。この設定は、アセンブリ上での接続設定とは関係がありません。

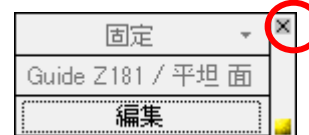
まず、Locking heel と Guide Z181 の側面を一致させます。



次に Guide Z181 の面を固定します。この条件により Locking heel の動作は Z 方向のみの動作しかできなくなります。



設定を削除したい場合は、×を選びます。



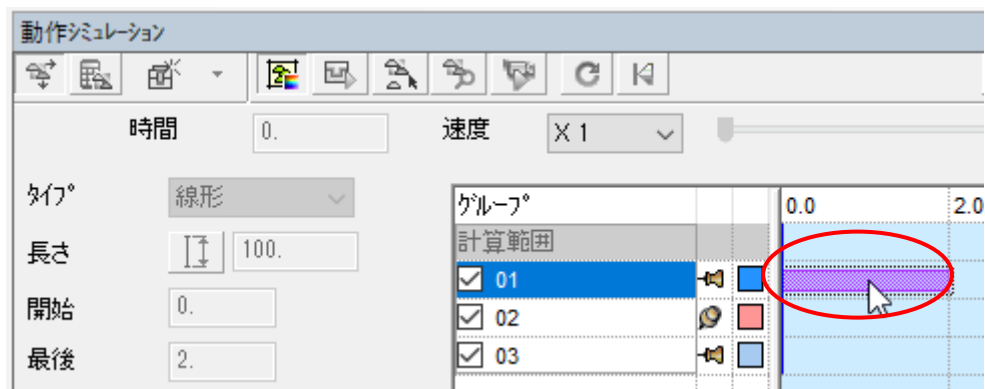
ここでは、キャンセルして進めます。



4. 動作設定

今回の動作設定では、グループ ”02” が位置固定になっているのでグループ 01 の動作設定をすることで、グループ 03 も動作させます。

グループ 01 の右のセルで
(1) ダブルクリック



動作方向と距離を設定します。

他の CAD 操作と同様、矢印の根元を選択することで方向を変更できます。

矢印を Z マイナス方向に
反転



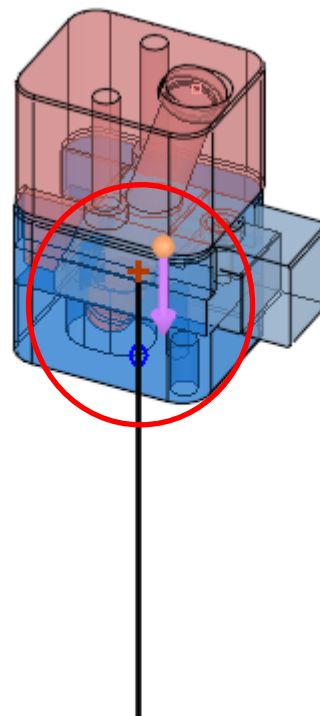
OK

方向による ▼

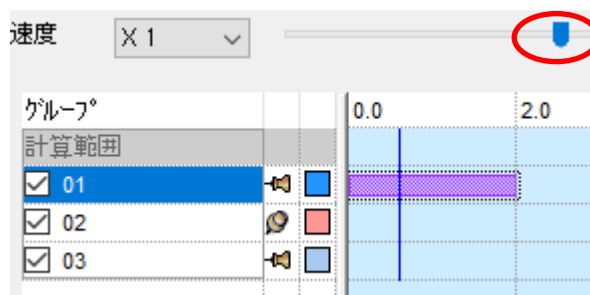
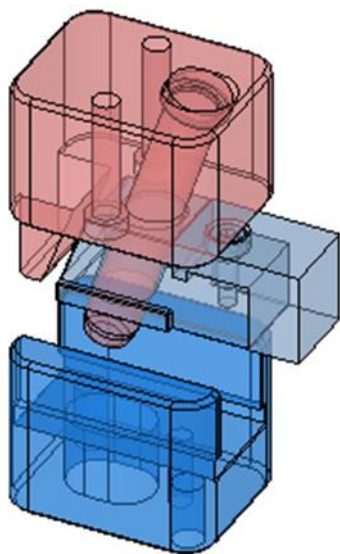
増分

片側

増分 = 100.0000



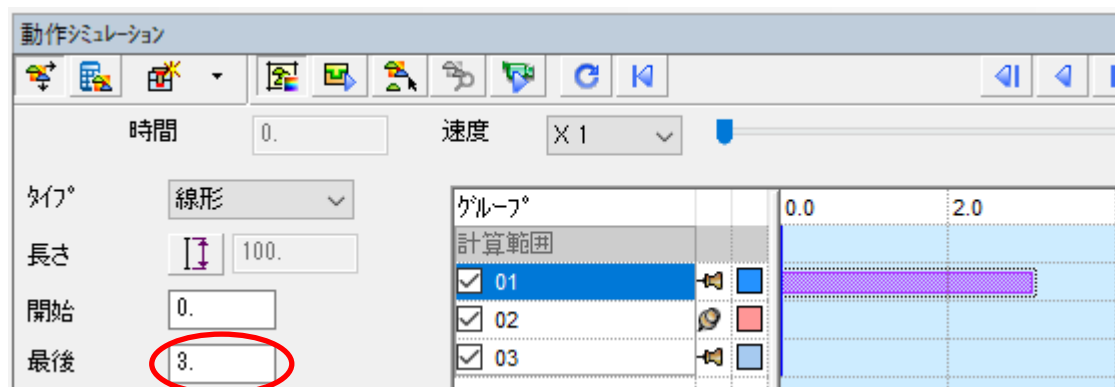
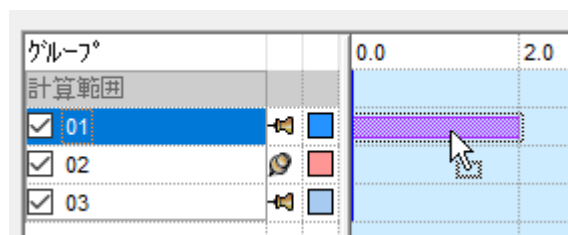
スライダーバーを右にドラッグすることで、設定した動作を確認できます。
 ここでは、他のコンポーネントとの干渉は見えていないので、他のコンポーネントは動作しません。



先に設定した動作の終了時間を変更してみます。

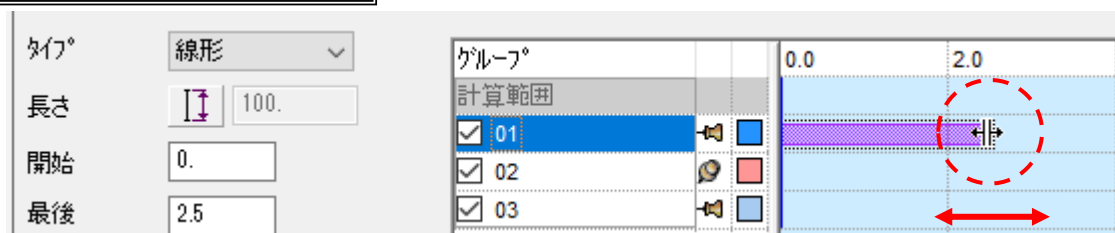
グループ 01 の動作セル選択

最後 : 3 <Enter>



ドラッグ操作 2.5 に設定

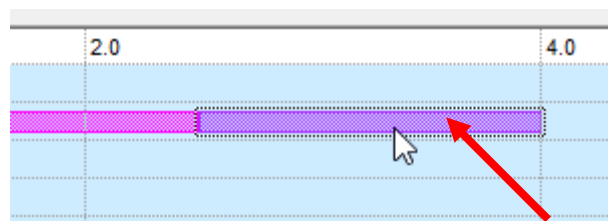
動作バーをドラッグする操作でも、設定変更できます。



動作を続けて設定してみます。

先に設定した動作バーの右側で

(1) ダブルクリック



1

増分: 40.



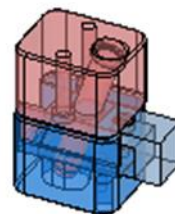
OK

方向による ▾

増分

片側

増分 = 40.0000



設定した動作を確認してみます。



再生

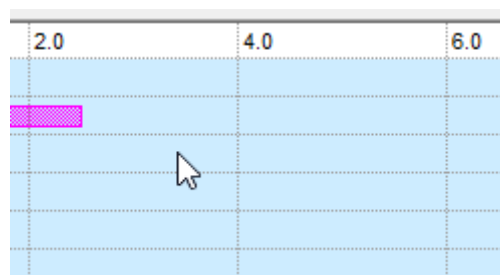
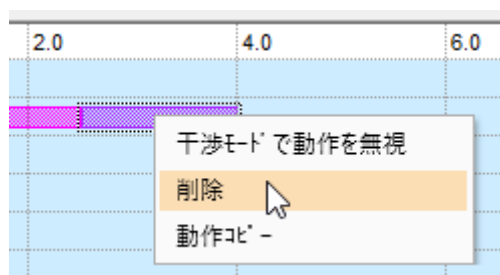


今回は後で設定した動作は不要ですので、削除します。

削除する動作バー上で

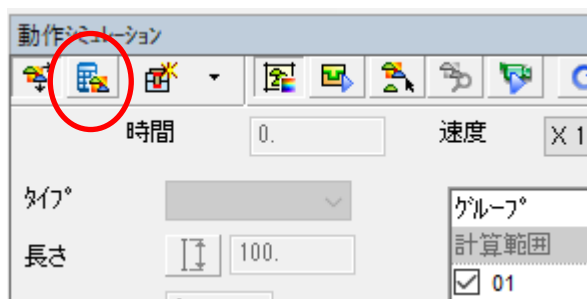
③<ホップアップ>

削除

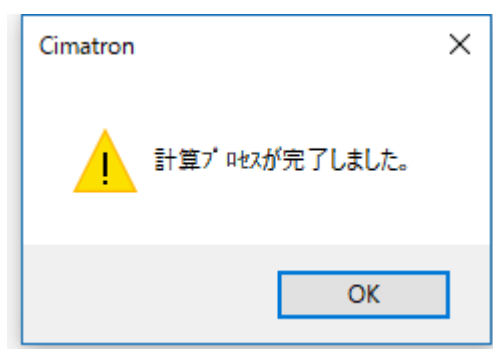


5. 動作計算

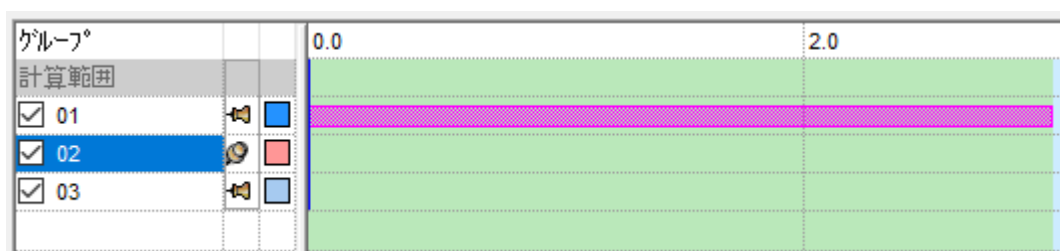
計算を実行します。



計算が実行され、完了するとメッセージが表示されます。

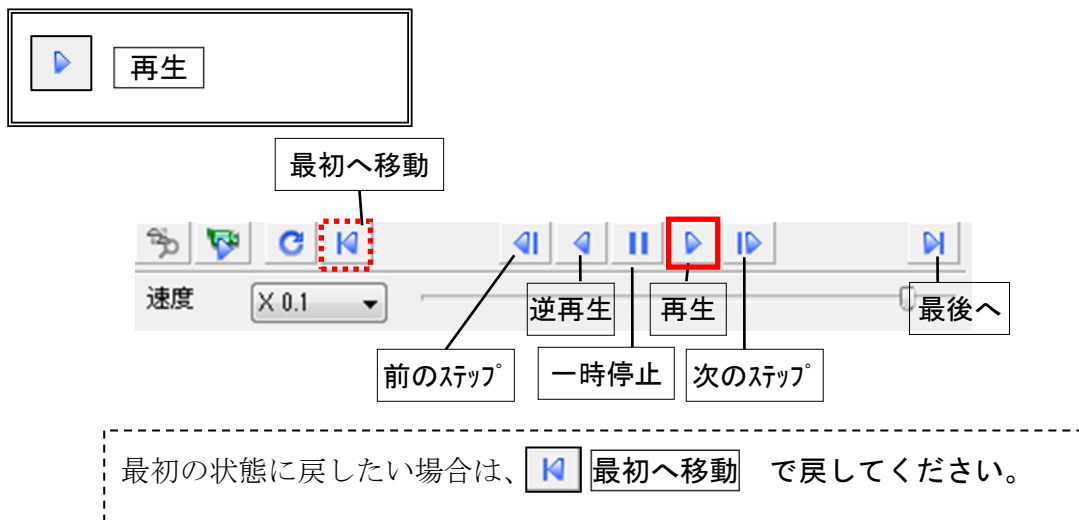


計算が実行されたことがわかるように、セルの色が変わることを確認ください。



6. シミュレーション

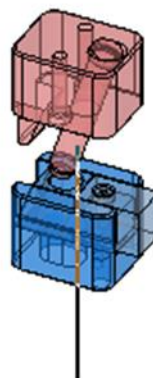
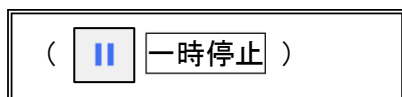
計算が終わったら、動作シミュレーションを確認します。



シミュレーション速度を変更し、シミュレーションを行います。

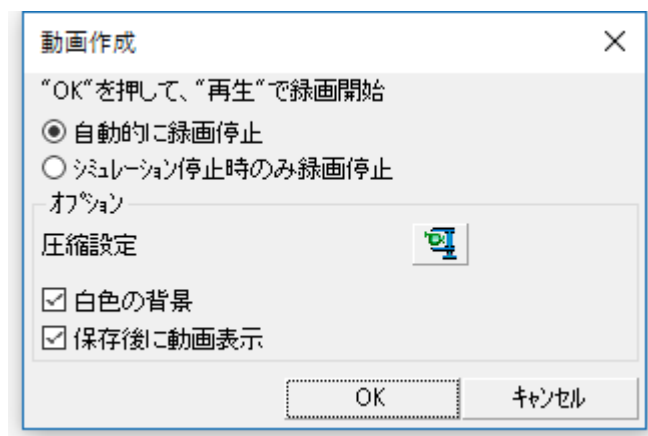
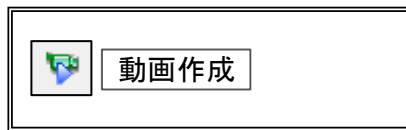


途中でとめるには、停止しを押します。

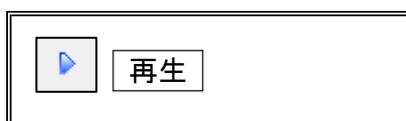
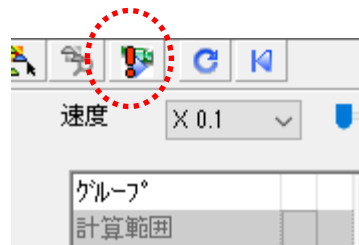


7. 動画作成

シミュレーションの動画を作成します。

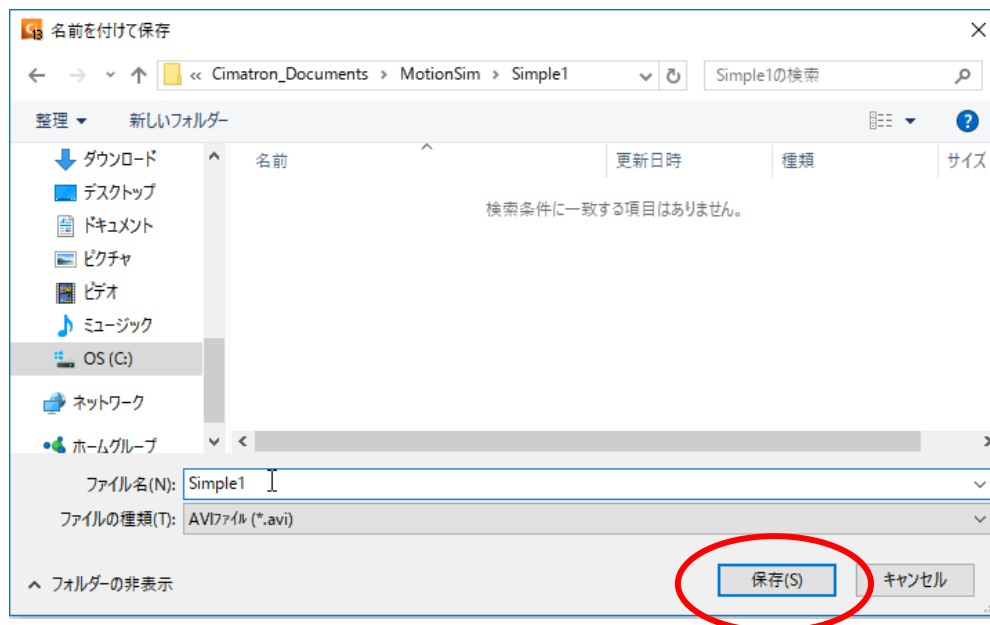


スタンバイ中になり、再生で録画が開始されます。



再生が終わると、名前を付けて保存のダイアログがでますので、保存してください

Simple1



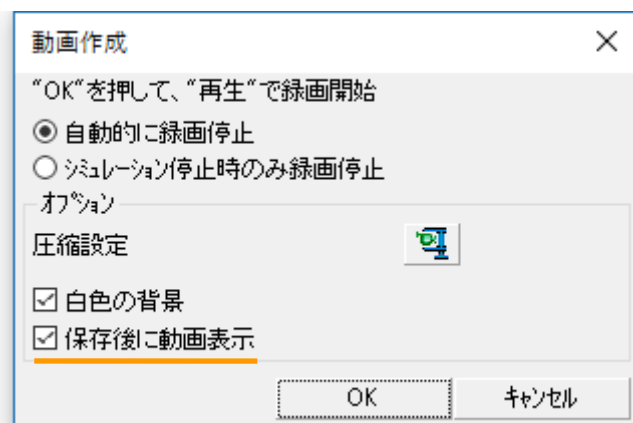
avi ファイルにて保存されます。

動作シミュレーション結果を保存します。

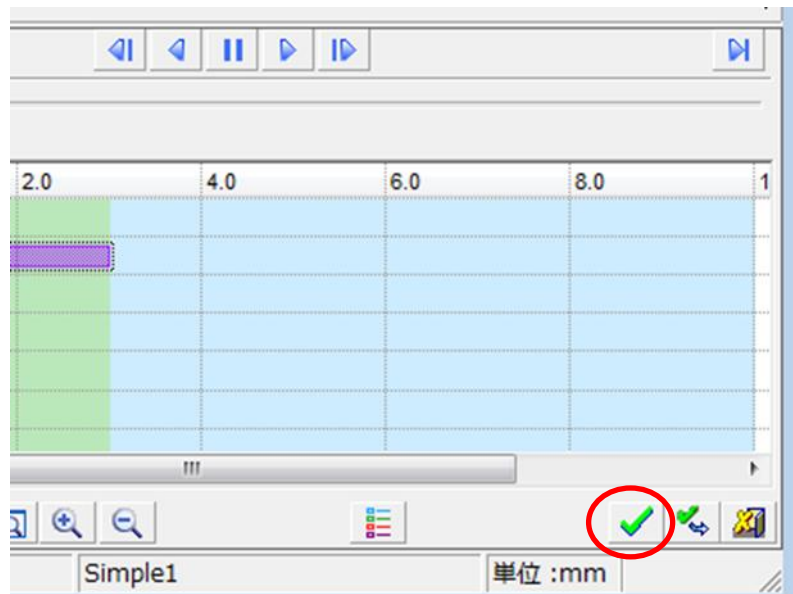
保存

※保存すると同時に動画が再生されます。

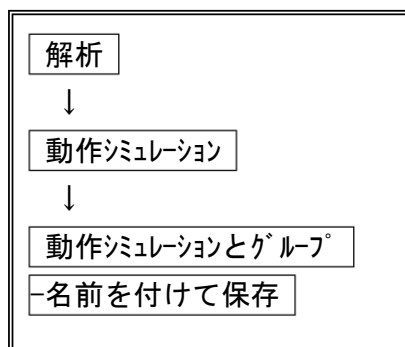
動画を再生したくない場合は動画作成実行前のダイアログで、表示しない設定にして動画を作成してください。



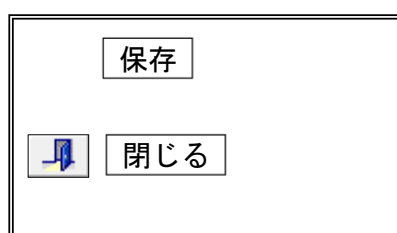
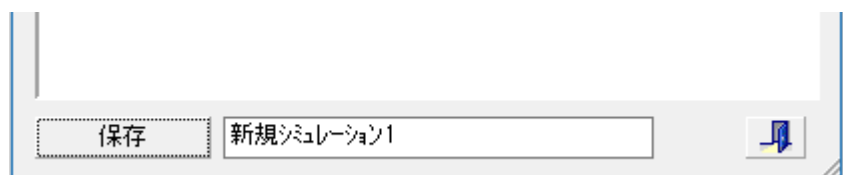
シミュレーションを終了し、結果を保存します。



シミュレーションの名前を付けて保存します。



シミュレーション 1 (キー入力)



ファイルを保存して閉じます。

